

『“片桐淳至”との初対決』は2点のリードを守れず.....
甲府 2-2岐阜【第3節】

F C岐阜対甲府戦は2対2で引き分け。後半に佐藤選手の2ゴールで2対0とリードするも追いつかれての引き分け、勝てなかったのは残念、でも片桐選手も後半から出場し内容の濃い試合になったのではないかと思います。あとは勝ってもっと上に！F C岐阜頑張れ！

(ハマッチ)
岐阜市内から車で3時間ちょっと。甲府のホーム小瀬まではちょっとしたドライブ感覚でくる事が出来る為、多くの岐阜サポが小さく区切られたアウェーゴール裏に集合。ほぼ、緑に染まったそこには300人とも500人とも言われる人が。入場時には一人一房の見事な巨峰をいただき、「懐柔されないぞ」と思いながらも、若干顔が緩んでしまう。

両チームのスタメン発表。F C岐阜はC大阪戦と同じ。一方、甲府は岐阜の元10片桐はサブ。試合は、序盤甲府の選手がイエローをもらう。その後は岐阜ペース。相変わらずの岐阜のFW佐藤、バクは高さ、強さを発揮。後半開始から甲府は元10片桐を投入。試合のあとで、岐阜サポの何人かに聞くと気がついていなかった人もいたみたい。この時の甲府のバタバタについて佐藤がフリーでボレーシュート。これで先制して、後半19分にもC Kから佐藤のゴールで追加点。2-0とする。この2分後にも佐藤と甲府G K荻(片桐の高校時代の同級生)とゴールエリア手前で接触があり、F Kを獲得、甲府G K荻はイエローカード(レッドでも良かったのではとの声も)。これを高木が直接狙うも枠の外。

ところが、サッカーで一番怖いのは2-0というように、このあたりから甲府も交代で岐阜を押し返し、1点を返される。この時、直前で地震があったらしく(現地ではよく分からず)、結果としてこの地震が流れをかえてしまったのかもしれない。岐阜もバクを下げて菊池を投入するも同点にされてしまう。その後、岐阜は押谷、西川とFW2人を投入して巻き返すも、ロスタイムの廻のC Kを物に出来ずタイムアップ。2-2のドローで終了となった。現地には多くの岐阜サポの感想は「惜しかった」「もったいない」といった声が多かったように思う。一方の甲府サポはよく引き分けたという感想が多かったみたいなので、やはり、F C岐阜は押ししていたんだと(実際シュートは岐阜12 甲府6)。

でも、よく考えると3位の甲府相手に引き分けて残念がるということは、それだけチームが試合ごとに成長しているということなのだろう。試合後、ダンマクなどを片付けていると、片桐がわざわざ挨拶に来てくれた。「がんばれ」といった激励に頭を下げる片桐。そんな彼に最後に送られた言葉。

「J1で待ってる！」
そう。片桐、J1でまた対戦したい。だから、お前が活躍して甲府をJ1に上げてくれ。そして、俺たちもF C岐阜をなんとしても存続させて、きっとJ1に。

最後にこの試合で見ていてよかったものももう一つ。この小瀬のF C岐阜のゴール裏、太鼓の前で応援していた男の子と女の子。おそらく、小学校低学年くらいかな。促されて、試合開始前「WE ARE G I F U」を歌っている時にタオルマフラーをかざして前に行くと、試合中は太鼓のリズムに合わせて9分間チャントを歌って、飛んで、手拍子。「ネットを揺らせ」では笑顔でタオルマフラーを振り回していたこと。小さな子どもたちが大人達とともにF C岐阜を応援する。おそらく、帰りに翌日に親子でF C岐阜の話題で話をしたんじゃないかな。こういった親子共通の話題にF C岐阜があたり、コミュニケーションの一助となること。これもF C岐阜が岐阜県に存在する意義だと。そんなF C岐阜がこれからも子ども達に笑顔を与えられるチームであり続けてほしい。

(緑の小太鼓)

勝たなかった。悔しさが残る。まだ、一回も勝っていない甲府相手に、試合をほぼ支配していながらこの結果は残念でならない。甲府の選手に何が合ったかわからないが、ホームなのにグダグダな相手に対し、ここ二戦の鬱憤を晴らすかのような岐阜の選手たちの走りっぷり。洗一と俊慶の前線からの献身的なチェイス。両C B俊&秀人の攻撃的なチェックとボール奪取、体を張った守備。S Bの秋田と富成の前を追い越す動きと真ん中のバックアップ。特に富成のクロス精度がどんどん上がってきて、90分の中で何度もビッグチャンスを出すようになってきた。(それだけに、次節の出場停止は残念だ)このアツイ前後左右の動きに連動し、さらに推進力をもたらしたのが中盤の4人。相変わらずクールに敵を交わり、ベストな場所にパスを送る卓。ひんぱんにポジションチェンジを繰り返し、決定的な仕事をすると正と正吾、そしてキャプテン。今季最高と言える出来。昨年より1ブロック減ったせいもあるとはいえ、ほぼ満席のアウェイ・ゾーンはホットスポットと化していた。ここまでの成績もあろうが、この2シーズンのアウェイ戦で一番集まったと思われる岐阜サポで、タスキ付近も上から下までいっぱいだった。試合内容から、時々沈黙した甲府サポに比して、ほぼ止むことなく続いたコールやチャントが選手にパワーを与え、さらに後押ししたんだと思えた。長良川にいるのかと錯覚するくらい、選手もサポも燃えていた。

しかし、終了後に得た結果は勝ち点1。ほんの十数分だけ渡した甲府のターンで失った勝ち点3。でも、ここらへんが上位との差ということか。それでも、第1クールより確実に、そして顕著にチームの力はアップしている。次節・札幌戦が第2クールの締めくくり。そして、いよいよ第3クール。今季ラストの甲府戦は来月の長良川。今度こそ凱歌を上げて、思いっきり弾きたいね！

ただ、正直に言うところの甲府戦。ドローでよかったのかも？という気がしないでもない(苦笑)。試合後、「片桐コール」が自然と湧き起こった。淳至もこっちまで来てくれた。もしも勝敗が決していたら？あの光景はなかったかもしれない。あっても、もっと複雑な雰囲気になってたかもね。淳至も来づらいただろうし。うん、きっとそうだ。だからこの結果も、天の思召し、だったのかな？

(ぐん、)



絵 ひらっち

today's guest
コンサドーレ札幌
2008 J1 第18位

対戦成績
昨年は対戦なし

2009J2

順位表 第3節(暫定)
勝点、得失点差、得点、岐阜戦の戦績
(岐阜から見て)

1	C大阪	67p	+29	69	A	H
2	湘南	66p	+26	61	A	H
3	甲府	64p	+25	54	H	A
4	仙台	63p	+27	55	H	A
5	水戸	56p	+7	51	A	H
6	鳥栖	53p	+10	47	H	A
7	東京V	52p	+12	48	H	A
8	徳島	52p	+10	48	A	H
9	札幌	47p	+4	44	A	H
10	富山	47p	0	34	A	H
11	岐阜	41p	-10	34	---	---
12	草津	39p	-3	43	H	A
13	福岡	35p	-25	30	H	A
14	熊本	34p	-14	43	H	A
15	愛媛	29p	-21	36	A	H
16	岡山	25p	-26	24	H	A
*1	横浜C	22p	-22	22	A	H
*18	栃木	21p	-29	22	A	H

次回 HomeGame

第35節
横浜FC戦
8/22(土) 18:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp
お待ちしております!

F C岐阜大好き通信(岐大通)
8/16号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当: ささたく & 吉田 鑄造

おしらせ

2009年版『岐大通』は、試合数増加のために全ホーム戦での発行を断念し、3~4節ごとに発行の体制で臨んでおります。

次回発行:9/6相南戦

よろしく願い申し上げます。

これまで0得点だった相手に勝利！ 嶋田J初ゴール！ 岐阜2-1C大阪【第30節】

正直に言いますが善戦を期待して勝利は難しいと思ってました。天候が味方した感もありますが大阪のパスを寸断した事、サイドを扶けるパスやドリブルで敵両サイドバックを下げ攻撃参加させなかった事走り勝った事、そして何より選手の闘争心とモチベーションの高さが素晴らしい！客を呼べる試合とはまさにこの事！見事でした。雨の中声援を送り続けたサポーターの皆さんも満足でしょう。まだまだ先は長いのでコンディション維持に注意を払いつつ勝ち点獲得を目指そう！観客増に必ず繋がりますよ。ボランティアの皆さんいつもご苦労様です。

(ミスター珍道)

F C岐阜対C大阪戦は2対1で逆転勝利！。C大阪に先制点を許す苦しい展開も嶋田、佐藤のゴールで逆転勝ち。トップを走るチームに勝つ事で自信になるはず。勝って！勝って！もっともっと上へ！。F C岐阜頑張れ！(ハマッチ)

今日の相手は上位にいるセレッソ大阪。今日はかなり厳しい試合になるなあ、と、覚悟して観戦しました。この日のサイン会には、チームを引っ張っている染矢くんに西川くんが。彼らは試合には出ない。これで今日の試合は大丈夫か？とますます不安になりました。ところが、今のF C岐阜には勢いがありますね。先制されたのに、前半までに同点に追いつき、後半には佐藤くんのオーバーヘッドキック。これがゴールになり、逆転生で見る事ができて、二重の感動でした。雨で芝生は水を飲んで、なかなかパスが大変だったけど、それがF C岐阜にいい流れを作ったのかも。思い出してみると、同じ雨の試合だった4月のサガン鳥栖戦では、自分たちのサッカーができずに負けたことがありました。あれから長良川競技場では負けてないんですね。長良川競技場に観客を集まるためには、ホームゲームではいい試合を続けることに限ると思います。この調子を持続して、ホームゲーム不敗記録を続けてほしいです。

(たつぽん)

嬉しかった、ホントに嬉しかったあのセレッソ大阪に勝てたのだから。激しい雨で水溜りがあちこちでできたピッチがセレッソの得意とする華麗なパスサッカーを封じたという地の利はあったものの、攻撃の核となるマルチネスを抑えたのも要因の一つといったところか。攻撃面では、ついに嶋田のJ初ゴール。サポーターも仲間たちも待ち望んでいたゴール。いつかは決めてくれると思ってはいたが、大事なこの一戦で決めるとは。ジャストミートせずに当たり損ない気味になったのが幸いしたかな(笑) 洗一の「人生初」というオーバーヘッドも凄いゴールだった。これでHomeでは10戦負けなし、5、6、7月と3ヶ月負けなしという素晴らしい記録を樹立することができた。スタンドからの手拍子・声援も日増しに大きくなってきているのを感じる。長良川劇場はまだまだ終わらない。

(岐阜の誇り)

ようやく、大阪から奪った得点は正吾のゴール。昨季の3戦、そして今季の第1クールの合わせて4試合。勝ち点はおろか得点すらも奪えなかった大阪からの初得点が、これまで決定機は何度も作るのにそのたびゴールを外し続け、岐阜サポをやきもきさせ、あるいは「ゴールを決めちゃダメ」とかいう約束でもあるのかと疑念を抱かせ、「ゴール前まではJ1レベル」とまで言われた14番。ホントに待ち遠しかったゾッ、嶋田正吾！何十回と「正吾っ、梓っ！」と叫びつつ、それでも「正吾が決めたら、オレはコワレ。」と公言していた連中の喜びはいかばかりか。そのうえ、決勝ゴールは「得点王狙ってます」のオレたちの洗一！富成からの絶妙クロスに、意表をつくバイシクル・シュート一閃。相手GKをしばらく呆然とさせる、セクシーなゴールでサポの心をわしづかみにし、着々とエースへの道を進んでいく彼へのワクワク感がたまらない。ただ、二人のゴール以上にうれしかったのはもちろん岐阜の勝利だけど、4月の鳥栖戦を選手みんなが生かしてくれたこと。テクニックや才能では上のはずの大阪が、その力を発揮できずにいる中、確実にボールを運ぼうとしていた。アノ第1クールの鳥栖戦から、長良川での無敗記録が更新され続けている。失敗を力にしていく姿勢。ウチの選手たちはいろんな経験を積んで、さらに成長していってくれる。そのプロセスと結果を楽しむために、これからも長良川劇場へ足を運ばなくてはね。それにしても、得点してからのスタジアムは今までにない昂揚感に包まれて、ゼツタイ何かある、イケるって雰囲気っていいだった。アレは最高。これからもみんなでゼヒッ！(ぐん、)

おそらく、今シーズンのベストゲームになると思われる好ゲームでした。先制したのはC大阪。右からのクロスにピンポイントであわせたシュート。これに関しては、相手を褒めるしかないビューティフルゴールでしたが、われらがF C岐阜の佐藤の勝ち越しゴールもビューティフルゴールでした。横浜F C戦の押谷のスーパーボレーに触発されたのか、センタリングをダイレクトでオーバーヘッドシュート。まさにFWらしいゴールでした。試合全般に関しても、F C岐阜の選手はよく走り、体を張ってプレーしてました。特にバクの前線でのC大阪の選手との競り合い。何度も削られても強引にシュートに行く姿勢が良かったです。また、G K野田恭平のビッグセーブもチームを助けてくれました。

ですが、やはり岐阜サポとして絶対忘れてはならないのが、同点に追いついた嶋田の初ゴールでしょう。今期開幕前に豊スタで行われたプレシーズンマッチでの一時間前ミーティングで発表された嶋田チャント。この時には「得点を決めたら試合で歌います。」と言われ、いつ歌えるのか岐阜サポの多くが心待ちにしていた嶋田チャント。まさか、この時、ミーティングしている横の売店で嶋田本人が売り子をしているとは露知らず、これがプレッシャーとなったのがシュートごとごとく外れる。これまでにどれだけの岐阜サポが、彼の放ったシュートが枠をそれていくのを見て、ため息をつき、天を見上げたことか…。そして、ついには得点していないにもかかわらず嶋田チャントは解禁に。とはいえ、この解禁したあたりからの嶋田の攻守にわたる活躍は圧倒的で、サッカー誌のベストイレブンに選ばれたり、アシストも記録しており、あとは初得点を待つばかり…。そんな、岐阜サポたちの一番の関心事だった嶋田の初ゴール。それがついに多くの岐阜サポの目の前、ホーム長良川で見ることが。幸いというべきかこの嶋田の初ゴールは前半で同点に追いつくゴールであった為、私の回りも喜んでいた(ほっとしていた?)がすぐに試合に集中していました。もし、これが愛媛戦で染矢が決めたようなロスタイムでの決勝ゴールだったら、おそらく岐阜サポの多くは涙を流して壊れたでしょう(実際、横浜戦の佐藤のPKでぎっくり腰になった方もいたそうなので)。そこが、ある意味嶋田の嶋田らしさかなと。結局、この試合は2-1で逆転勝ちし、嶋田がエイデン賞を獲得。試合後バックスタンドに来ての挨拶もやはり嶋田らしい非常にまじめな物でした。ただ、この試合で唯一嶋田が嶋田らしくないなと思ったのが、初得点となったシュート。いつもの彼ならインステップキックできれいに振りぬくのに、このときのボレーシュートはボールにきちんとヒットせずにダフリ気味。そして、ゆるいシュートは枠に吸い込まれた訳で…。そんな嶋田に今までと同じ、切れのあるドリブル、圧倒的な運動量をかいた守備を期待したい。ただし、シュートの時だけは今までとは違うダフったシュートも打つ嶋田であってほしいものです。(緑の小太鼓)

ついにFC岐阜の選手が 八咫鳥(ヤタガラス)のエンブレムを胸に 戦います！

ジュビロ磐田からレンタル移籍でFC岐阜に加入し活躍している押谷祐樹選手が、このたび「U-20日本代表」に選出され、アルクディア国際ユーストーナメント(スペイン・アルクディア)に参加しています。大会は8/14からグループリーグが行われ、U-20日本代表はレバンテ(スペイン)、ブラジリア州選抜(ブラジル)、ヴィジャレアル(スペイン)と対戦します。F C岐阜所属の選手が世代代表に選ばれるのは初めてのことで、多くの経験を積んできてほしいです。がんばれ！

ALADDIN

何も無い店だけど・・・心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

雨の飛田給『味スタ』では個人技の差を見せつけられる…。連勝は4でストップ 東京V3-0富山【第3節】

FC岐阜対東京V戦は0対3で敗戦。シュート数では圧倒するもあと一歩がこの点差に。いかに最後のつめをするかですね。切り替えて次の栃木戦へ！。勝って！もっともっと上へ！FC岐阜頑張れ！

(ハマッチ)

サッカー好きの間では割と読まれている(と思う)某マンガの主人公が「雨の中ではしゃげる選手というのは、テクニックのある選手のことだ」と言っていたが、この試合のヴェルディの選手を見て少し納得できた。少しというのは、決してヴェルディの選手がはしゃいでいるように見えなかったことと、やってるサッカーは案外つまんなかったような気がしたから。まあ、負け惜しみだけど(苦笑)。テクニックではやや分のないウチの選手は、運動量と気持ちで圧倒しなければならなかったが、最近試合のたびに降り出す雨は先取点とともに、ヴェルディの選手に体力を温存させる余裕までも与えてしまったような気がする。「ヴェルディをバテさせるには気温が2度足りない」とハーフタイムに知人がのたまっていたが、もし、雨のない長良川でやっていたらどうだったろうか？あるいは大阪戦くらいのピッチコンディションなら…？まったく意味のない仮定だけれど。

それでも、ウチの選手に見どころがなかったわけじゃない。ただ、ひとこと言うなら、「ゴール前でもっと落ちつこう。」俊慶はかなり楽しみにしてきた。一点取ったら、洪一に負けにくいくらい活躍するんじゃないか？今後の俊慶からは、目が離せない！

(ぐん、)

雨の降りしきる…までは想定内というか希望通りだったのだけど、いかんせん気温が低い。もっとこう、じめじめとじと、そうした気候だったら、『岐阜タイム』まで保てば仕留められるかもしれないのだけど。試合開始前は、そんなことを考えてました。

結果は3失点負け。長良川で対戦した時と大黒が違うヒトでした(笑)。現地で偶然お会いした、某J1クラブの『中の人』と一緒に観戦したのだけど、彼曰く「いい経験になる」。その言葉通り、この日の大黒の「ボールが入ってくる1秒前に数十センチ動いてマークをはずす」テクニックは間違いなく超J2級。こんなありがたい“教材”と対峙出来たウチのCB、ノガ&シュートはこの経験を今後に生かさないと手はない。

攻撃陣の収穫は俊慶。ソメッシが抜け(ケガ?)、押谷がドナドナ(代表招集のことです)されて攻撃陣が手薄で心配な時期に、彼の前線での運動量は大きな武器だ。

最後に、この試合で後半途中、嶋田に替わって菊池投入された時、岐阜サポ集団から少し離れたところが大きく沸いた。前出『中の人』が「分裂応援かと思った(笑)」そこには、フエンテ東久留米の関係者とおぼしき一団が。調布から東久留米は北にわずか10峠口。Jリーガーとなった菊池完を応援に来てくれたのだ。

現在、東京都リーグ2部(上から数えて7部)で戦うフエンテ東久留米。CBにJリーガーがいることを誇りにしてくれているのなら、ぼくも嬉しい。がんばってください。我々も、がんばります。

(吉田鑄造)

さて、今日は花火の日！

運命のいたずら(?)でありましょうか、コンサドーレ札幌戦の行われる本日8月16日は、先日悪天候のため延期となった岐阜新聞主催の花火大会と重なる事態となりました。ここ長良川競技場周辺は大混雑が予想されます。スケジュールどおりなら後半の途中からまさに目と鼻の先でドッカンドッカの花火が打ち上げられることとなります。花火の勢いそのままにFC岐阜の攻撃陣が火を吹いて札幌のゴールに襲いかかることを期待します。

(ST57)



本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

平日ナイターは連戦の疲れか？ ホームでドロ 岐阜1-栃木【第3節】

双方共走力は落ちなかったこの試合、実質栃木の勝利と言えるでしょう。橋本選手がマークされパスが通らず単純なミスも多く運動した動きが鈍くサイドからの崩しも上手く行かず結局シュートも少なくなり得点のチャンスがありませんでした。順位を下げる事はなかったのは幸いです。短期連戦が続く夏の今こそ岐阜の本領発揮できる機会。苦しいでしょうが乗り切って上位を目指しましょう。

(ミスター珍道)

FC岐阜対栃木戦は1対1で引き分け。後半に先制点を取られる苦しい展開も、高木選手のPKで追いつき引き分け。負けなかったのは良かったけど相手が一人数なくなった事を考えれば勝ちたかったか。チームの雰囲気はいい。あとは勝ってもっと上に！FC岐阜頑張れ！

(ハマッチ)

こんな日もある。そう苦笑するしかない、ちょっと残念な内容。それも前節に続いての消化不良、とは思ったものの、考えてみれば2戦続けて結果も内容もよくなかったのはズイブンと久しぶり？このあたりにも、第2クールの好調さが現れているのかも。まあ、今日のパフォーマンスはあんまりバツとしないかったけど、やはり連戦の疲れが抜けてなかったのだろう。誰もがたぶん初めて経験する51試合もの長丁場。調整に苦労するのもしかたがない。

とはいえ、長良川での栃木戦。ぜひ、JFLの時のお返しがあったかな。前半、スローインから正吾 押谷のスルーが、もうワンテンポ早ければ。後半序盤の、正吾のクロスに優大の抜け出しがあと一歩。下位のチーム。それも現在結果が出ていない相手から、きっちり勝ち点3を取る。それが上へあがるためには必要はず。

それでも、追いついたからね。もう一度やるべきことを確認して、次節の甲府戦に乗り込んでほしい。そして、アイツに成長振りを見せてくれることを願っている。

フォルツァ！FC岐阜！！

(ぐん、)

こういう表現は正しくないかもしれないけど、スタメン発表を見て「……ターンオーバー？」と思ってしまったことを痛苦的自己批判とともに白状したい(笑)。注目は出場停止明けの秋田を休ませて左サイドバックに起用した須崎と、ケガが治って調子を戻しているか？の菊池。

結果は……これまでのスタメン組との間に“差”があることが見えてしまい、残念。須崎はボールを奪うまではいいのだけど、フィードがごとごとく相手の中盤の前に蹴ってしまい『ピンチの起点』になること多数。日曜のヴェルディ戦ではこんなじゃなかったんだけどな…。同期移籍の押谷が内容も結果も残しているし、須崎にもがんばってほしい。完ちゃんは、まだ試合勘が戻ってないのかな？という感じ。彼ほどのベテランならキチンと戻してくるだろう。

スコアは1-1 連戦の疲れだろうか、どうも“入り方”が緩く、後半30分の『岐阜タイム』突入までにはやられてしまう香りが。で、実際にやられてしまうし。もっとも、その数分後に和正のPKで追いつけたのはよかった。「帰ってきた栃木のエース」若林が一発退場で相手が出たのはウチにとって“不運”だった？これで相手は「1-1のドロで勝ち点を得る」ことでミッションが決まっちゃったからね。攻め込んでの岐阜側のコーナーポストで時間稼ぎをしてまで。

ウチも内容がよくないながらも勝ち点は取れた。けどなあ、JFL時代に0-2で「スコア以上の完敗」を喫し、ホーム長良川で栃木サポ達に朗々と“県民の歌”を歌われてしまった、あの借りは返したかったなあ。第3クールはアウェー戦なので、来年以降の対戦に持ち越した。たっぷり利子をつけて返そう。

(吉田鑄造)

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：日曜日(今日はお休みです)

